

中間事業報告書

平成16年4月1日～平成16年9月30日

第
106
期

① 人々の健康を見つめ、環境との共生を図る
～環境への取り組み(富山事業所)～

P5

② TOYAMA CHEMICAL NOW!
グラクソ・スミスクライン社と共同研究開発
及びライセンス契約締結

P7

企業理念 P 1	医薬品についての豆知識Q&A P 8
株主の皆様へ P 2	今中間期決算の状況 P 9
営業の概況 P 3	連結 P 9
環境への取り組み P 5	(貸借対照表、損益計算書、 キャッシュ・フロー計算書、剰余金計算書)	
新薬開発の状況/ 主要な製品紹介 P 6	単体 P11
TOYAMA CHEMICAL NOW! P 7	(貸借対照表、損益計算書)	
		会社の概要/株式の状況 P13
		株主メモ P14

富山化学

本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿三丁目2番5号 TEL. (03) 5381-3821 (直通：株式担当)
 富山事業所 (総合研究所・富山工場) 〒930-8508 富山市下奥井二丁目4番1号 TEL. (076) 431-8212
 (富山第二工場) 〒931-8334 富山市千原崎一丁目8番70号 TEL. (076) 438-6665
 ホームページアドレス <http://www.toyama-chemical.co.jp/>



地球環境に配慮した大豆油インキを使用しています。



古紙配合率100%再生紙を使用しています。



企業理念

ライブサイエンスで健康文化を創造する

富山化学が約束する4つの満足

- 一、健康を願う人々、医療に携わる人々が真に求める価値を提供する(顧客満足)
- 一、安定した業績を通じて、株主に貢献する(株主満足)
- 一、環境マネジメント及び社会貢献活動の取り組みを通じて持続的な社会の発展に貢献する(社会満足)
- 一、公平、公正な場を提供し、意欲に満ちた社員の自己実現を支援する(社員満足)

株主の皆様へ

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

平成16年9月30日をもって第106期中間期を終了しましたので、ここに「中間事業報告書」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

医薬品業界を取り巻く環境は、医療保険制度の健全化を目的とする医療制度改革や薬事法改正などによって薬剤費抑制の傾向が一段と強まり、市場拡大に歯止めがかかる中で、規制緩和に伴う外資系製薬会社の進出やM&Aによる業界再編が進み、競争は一段と激化しています。

このような厳しい事業環境に対応し、当社では技術提携を通じて海外への進出を積極化し、成長の活路を拓いています。また、価値評価の重点がモノからノウハウや知識に移行しつつある中で、当社が一番の強みである研究開発力・生産技術力を発揮し、研究の成果そのものを事業の核に据えた事業展開に業容をシフトさせ、さらなる発展を目指しております。

その一環として、本年9月、当社はグラクソ・スミスクライン社（以下、GSK）と、GSKが保有する化合物ライブラリーから新規抗菌剤を創製することに関する共同開発及びライセンス契約を締結いたしました。これにより、当社の強みである創薬開発能力を生かし、よりスピーディーな開発を行ってまいります。

また、本年6月、当社は米国シェリング・プラウ社と抗感染症領域の大型新薬として期待されるニュータイプのキノロン系合成抗菌剤「T-3811」の導出に関するライセンス契約を締結しました。それに伴い今期は8,000万ドルの契約一時金を受領しました。今後は総額でさらに2億4,500万ドルの一時金とバルク供給による売上がもたらされ、当社収益に大きく貢献する見込みです。

一方、当社医薬品の販売会社である「大正富山医薬品株式会社」の販売状況につきましては、市場競争激化の影響を受けながらも、売上目標を上回る結果となりました。

こうした状況から、当上半期の業績は、次ページ以降に記載のとおり、連結・単体ともに純利益を計上することができました。しかしながら、累積損失を解消するには至らず、このため、誠

に遺憾ながら、中間配当金につきましては見送ることとさせていただきます。株主の皆様には、ご期待にお応えすることができず、深くお詫び申し上げます。

当社は、このような厳しい状況から一刻も早く脱するため、環境変化に迅速に対応し、成長機会を確実に捉えるべく、昨年6月に委員会等設置会社へ移行し、透明性の高い、大胆かつスピーディーな経営を行っております。また、機関・組織を相互に連携させ、実効性のあるコンプライアンス体制を確立しています。

このように、当社は、全てのステークホルダーの利益にかなう経営を実現するためのコーポレート・ガバナンス体制を構築することによって、強靱な企業体質への改善を図っていくとともに、事業展開を当社の最大の強みである「新薬開発力」に特化することによって、製薬業界の激しい競争を勝ち抜き、新たな成長を遂げていく所存です。

株主、投資家の皆様におかれましては、何卒より一層のご支援を賜りますことを衷心よりお願い申し上げます。

平成16年12月



代表執行役社長

中野克彦

営業の概況

販売の状況

売上高は165億99百万円、医薬品部門の売上高は158億4百万円

当社グループの当中間連結会計期間の売上高は165億99百万円、うち医薬品部門の売上高は158億4百万円（前中間連結会計期間比210.0%）となりました。

本年4月に業界平均4.2%の薬価基準引き下げが実施されるなど、引き続き厳しい医療費抑制の環境下にある中で、大正富山医薬品株式会社への医療用医薬品の売上高は、61億14百万円（前中間連結会計期間比107.1%）と伸ばいたしました。

大正富山医薬品株式会社では、昨年4月に当社と大正製薬株式会社との営業部門の統合を図り営業活動を開始してから1年余りが経過しました。

前年度の営業基盤整備の結果、主力品の注射用ペニシリン系抗生物質製剤「ペントシリン」、経口用ニューキノロン系抗生物質製剤「オゼックス」、経口用セフェム系抗生物質製剤

「トミロン」はいずれも伸ばしております。また、長期育成品のループ利尿剤「ルブラック」及び注射用ニューキノロン系抗生物質製剤「パシル」については当中間連結会計期間も引き続き売上を拡大いたしました。

技術料収入については、ニュータイプのキノロン系抗生物質製剤「T-3811（一般名：ガレノキサシン）」の世界的な開発、使用及び販売権を米国シェリング・プラウ社へ導出することで本年3月に基本合意しておりましたが、6月に正式契約を締結し、契約に伴う一時金収入（80百万ドル：86億92百万円）がありました。また、ニューキノロン系抗生物質点眼剤「TN-3262a（オゼックスの点眼剤）」の新薬承認申請に伴い、導出先である東亜製薬株式会社（韓国）からの一時金収入等があったことなどから、大幅な増収となりました。

損益の状況

経常利益は52億99百万円、中間純利益は46億38百万円

売上高及び損益 (単位:百万円)

	平成17年3月期		平成16年3月期	
	中間実績	年間見込	中間実績	年間実績
売上高	16,599	24,800	8,296	16,831
営業利益	5,426	2,200	▲ 2,226	▲ 4,369
経常利益	5,299	2,000	▲ 3,091	▲ 5,482
中間(当期)純利益	4,638	500	▲ 5,170	▲ 4,899

部門別売上高(平成17年3月期) (単位:百万円)

	中間実績	年間見込
医薬品	15,579	22,300
CHC製品	95	300
単体合計	15,674	22,600
連結子会社	925	2,200
連結合計	16,599	24,800

利益面につきましては、前中間連結会計期間に比べて医療用医薬品の売上高が増加したこと、導出先からの一時金収入が寄与したことなどから、経常利益は52億99百万円となりました。下期に売却を予定している固定資産の評価損59百万円を特別損失に計上、さらに、法人税等を増額させる法人税等調整額5億85百万円を処理した結果、中間純利益は46億38百万円となりました。

財政状態

有利子負債は前連結会計年度から7億円減少し、205億円に

当中間連結会計期間において借入金を7億円減少し金利費用の低減を図ったことから有利子負債の残高は205億円になりました。

当中間連結会計期間のキャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の残高は36億円増加し、205億円に

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は契約一時金等の収入もあり、税金等調整前中間純利益が大幅に伸びたことに加え、売上債権、たな卸資産の減少等もあったことから65億15百万円の収入（前中間連結会計期間25億77百万円の収入）となりました。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は有価証券の売却等があったものの、新たな有価証券の取得、定期預金の預け入れ等があり21億60百万円の支出（前中間連結会計期間49億15百万円の支出）となりました。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は前連結会計年度に引き続き借入金の返済等を行ったことにより8億17百万円の支出（前中間連結会計期間55億14百万円の支出）となりました。

以上のことから、当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物中間期末残高は前連結会計年度末に比べて36億57百万円増加し205億95百万円となりました。

研究開発費(連結) (単位:百万円) 設備投資(連結) (単位:百万円) 減価償却費(連結) (単位:百万円)

平成17年3月期		平成17年3月期		平成17年3月期	
中間実績	年間見込	中間実績	年間見込	中間実績	年間見込
2,960 (17.8%)	5,800 (23.4%)	217 (1.3%)	500 (2.0%)	507 (3.1%)	1,100 (4.4%)
平成16年3月期		平成16年3月期		平成16年3月期	
中間実績	年間実績	中間実績	年間実績	中間実績	年間実績
2,476 (29.9%)	5,161 (30.7%)	123 (1.5%)	288 (1.7%)	570 (6.9%)	1,167 (6.9%)

1. グラクソ・スミスクライン社(GSK)と共同研究開発及びライセンス契約締結

当社とグラクソ・スミスクライン社(以下、GSK)は、GSKが開発した新規抗菌剤探索システム及び化合物ライブラリー(化学構造が異なる多数の有機化合物)を用いて新規抗菌剤を創製することに関する共同研究開発及びライセンス契約を本年9月7日に締結いたしました。

当社とGSKはともに感染症治療薬の開発を重要と位置付けており、新規抗菌剤を早期に開発・商業化するという両社の意思が一致したため、今回の契約締結に至りました。GSKは、化学構造が異なる多数の有機化合物を有し、作用の仕組みが異なる抗菌剤候補化合物を多数の有機化合物の中から迅速に見出す方法をいくつか開発しています。これと、当社の強みである創薬開発力と合成技術力を組み合わせることで、効率的に新規抗菌剤を開発できると判断しました。

GSKは、GSKが保有する多数の有機化合物から抗菌剤候補化合物を見出す方法を用いて、抗菌剤の種となる化合物を見つけ出します。当社は、GSKが見出した抗菌剤の種から創薬開発力と合成技術力を用いて、さらに抗菌効果・安全性に優れた化合物へと導きます。GSKは、この中で最も効果・安全性に優れた化合物について、非臨床試験を実施し、臨床試験に進めるかどうかを検討します。

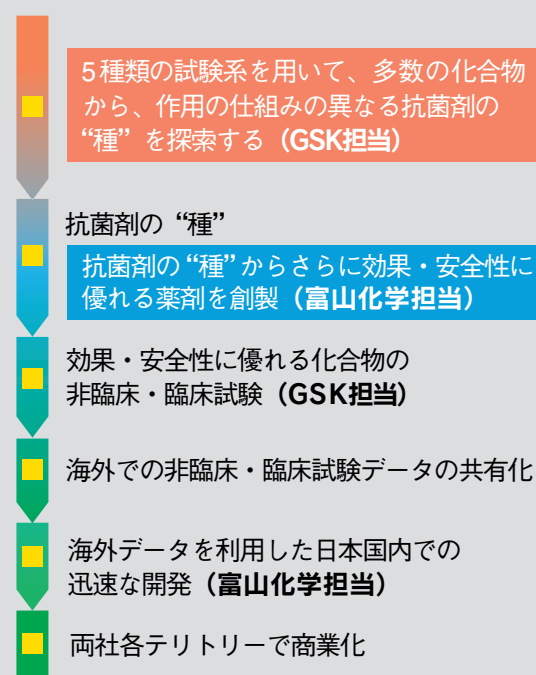
当社は、臨床試験に進めることが可能となった化合物について、海外でGSKが実施した試験成績も利用して日本において臨床試験を行い、販売承認を取得します。GSKが実施した海外試験データの利用は、日本国内での開発のスピードアップに繋がります。

日本を除く海外各国での開発はGSKが行い、当社は、GSKが実施する開発の各段階に応じて一時金を受領することが

できます。販売後は、当社はGSKより、日本、中国及び韓国を除く各国での製品の売上高に応じた実施料を受領することができます。一方、当社は、日本における製品の売上高に応じた実施料をGSKに支払うことになります。中国と韓国においては、当社はGSKと併売することができます。

当社は「感染症に関わる革新的な治療手段を世界に提供する」ために常に努力しており、今後はGSKと協力して、GSKの強みと当社の強みを合体させることによって、優れた抗菌剤の効率的な開発に努めてまいります。

研究開発の流れ



2. 感染症治療薬(ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤)「T-3811」米国シェリング・プラウ社とライセンス契約締結

当社が開発しているニュータイプのキノロン系合成抗菌剤「T-3811(一般名:ガレノキサシン)」の世界的な開発、使用及び販売権を米国シェリング・プラウ社(以下、シェリング・プラウ)に供与することで、本年6月22日に正式契約を締結いたしました。

<契約の概要>

- 富山化学は、日本、韓国、中国を除く全世界における開発、使用及び販売の独占的権利をシェリング・プラウに供与する。
- 富山化学は、日本、韓国、中国における開発、使用及び販売の独占的権利を有する。
- 富山化学は、原薬をシェリング・プラウに供給し、シェリング・プラウは自社マーケット用の最終製品の製造を行う。
- 富山化学は、契約一時金として8,000万ドルを受領する。
- 富山化学は、その後、開発・販売の各段階において、その達成度合いに応じ総額2億4,500万ドルの追加一時金を受領する。
- 富山化学は、売上高に応じた実施料を受領する。今後、当社は、シェリング・プラウと協力して、「T-3811」の国外における早期承認の獲得と規模の拡大に努めてまいります。

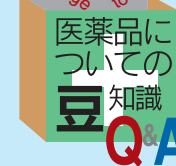
3. 国際学会にて、当社の開発品を発表しました!

米国サンディエゴで第34回北米神経科学会(2004年10月23日~27日)が開催され、当社は、現在開発中のアルツハイマー病の進行を抑制する薬剤として期待される新薬の「T-817」の発表を行いました。

また、米国ワシントンD.C.で開催されました第44回抗微生物薬・化学療法インターサイエンス会議(ICAAC/44)(2004年10月30日~11月2日)では、当社開発品のニュータイプのキノロン系合成抗菌剤「T-3811」のほか、現在開発中の新規の化合物として期待される抗ウイルス剤と抗真菌剤の発表を行い、両学会にて大きな注目を浴びました。



The bits of knowledge to medicine.



Q1: 抗菌剤と抗ウイルス剤は、どう違うのですか?

A: どちらも感染症に対する薬剤ですが、病原体の種類が違います。抗菌剤は、細菌による感染症の

治療に使われます。抗ウイルス剤は、インフルエンザやエイズといった、ウイルスによる感染症に対する治療薬です。

ウイルスは細菌よりもはるかに小さい微生物で、自分の力で分裂して増殖することができません。人間や動物、植物の体内に侵入して、その生物の細胞を利用して増殖しますが、1つの細胞の中で何十~何百もの複製を作り、爆発的に増えることができます。

抗ウイルス剤には、ウイルスを細胞内に侵入させないようにする方法もありますが、現在は、細胞内で複製を作らせないようにしたり、複製を作っても細胞の外に出さないようにするなどの、増殖を制御する方法が主流です。

今中間期決算の状況(連結)

貸借対照表

科目	(単位:百万円)	
	当中間期 (平成16年9月30日現在)	前期 (平成16年3月31日)
資産の部		
流動資産	43,893	40,248
現金及び預金	11,413	7,474
受取手形及び売掛金	3,565	4,030
有価証券	17,263	15,264
たな卸資産	9,870	10,486
繰延税金資産	277	861
その他	1,509	2,137
貸倒引当金	▲ 6	▲ 6
固定資産	32,596	33,687
有形固定資産	22,609	23,833
建物及び構築物	8,323	8,673
機械装置及び運搬具	1,108	2,049
土地	12,794	12,794
その他	382	315
無形固定資産	727	931
投資その他の資産	9,259	8,922
投資有価証券	5,034	5,422
子会社株式	68	68
繰延税金資産	1,086	1,004
その他	3,238	2,599
貸倒引当金	▲ 167	▲ 171
繰延資産	17	34
資産合計	76,506	73,969

科目	(単位:百万円)	
	当中間期 (平成16年9月30日現在)	前期 (平成16年3月31日)
負債の部		
流動負債	16,474	18,076
支払手形及び買掛金	2,789	3,223
短期借入金	4,191	4,686
一年以内返済予定の長期借入金	272	327
一年以内償還予定の転換社債	7,941	7,942
引当金	244	238
その他	1,035	1,658
固定負債	24,504	24,740
長期借入金	9,415	9,581
再評価に係る繰延税金負債	2,468	2,468
退職給付引当金	11,876	11,901
役員退職慰労引当金	647	696
その他	96	92
負債合計	40,978	42,817
少数株主持分	—	121
資本の部		
資本金	22,397	22,397
資本剰余金	21,531	21,530
利益剰余金	▲ 7,360	▲ 11,997
土地再評価差額金	▲ 1,565	▲ 1,565
株式等評価差額金	760	883
自己株式	▲ 235	▲ 217
資本合計	35,528	31,030
負債、少数株主持分及び資本合計	76,506	73,969

損益計算書

科目	(単位:百万円)	
	当中間期 (平成16年9月中間期)	前中間期 (平成15年9月中間期)
売上高	16,599	8,296
売上原価	6,305	5,934
返品調整引当金戻入額	0	15
販売費及び一般管理費	4,867	4,603
営業利益又は営業損失(▲)	5,426	▲ 2,226
営業外収益	353	249
営業外費用	480	1,113
経常利益又は経常損失(▲)	5,299	▲ 3,091
特別利益	1	88
特別損失	59	140
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(▲)	5,241	▲ 3,143
法人税、住民税及び事業税	18	9
法人税等調整額	585	2,306
少数株主損失(▲)	-	▲ 287
中間純利益又は中間純損失(▲)	4,638	▲ 5,170

【連結対象会社】
富山工営(株)、(株)トミックス、北陸メディカルサービス(株)、
(株)ホワイトピーアール、太陽産業(株)
【持分法適用会社】
大正富山医薬品(株)
【その他関係会社】
TOYAMA EUROPE LTD.、TOYAMA USA INC.

今中間期決算の状況(連結)

連結キャッシュ・フロー計算書

連結剰余金計算書

科目	(単位:百万円)	
	当中間期 (平成16年9月中間期)	前中間期 (平成15年9月中間期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,515	2,577
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 2,160	▲ 4,915
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 817	▲ 5,514
現金及び現金同等物に係る換算差額	120	▲ 0
現金及び現金同等物の増減額	3,657	▲ 7,853
現金及び現金同等物の期首残高	16,937	26,079
現金及び現金同等物の中間期末残高	20,595	18,226

科目	(単位:百万円)	
	当中間期 (平成16年9月中間期)	前中間期 (平成15年9月中間期)
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	21,530	21,530
資本剰余金増加高	0	-
資本剰余金中間期末残高	21,531	21,530

科目	(単位:百万円)	
	当中間期 (平成16年9月中間期)	前中間期 (平成15年9月中間期)
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	▲ 11,997	▲ 7,098
利益剰余金増加高	4,638	-
利益剰余金減少高	0	5,170
利益剰余金中間期末残高	▲ 7,360	▲ 12,269

今中間期決算の状況(単体)

今中間期決算の状況(単体)

貸借対照表

資産の部		
科目	(単位:百万円)	
	当中間期 (平成16年9月30日現在)	前期 (平成16年3月31日)
流動資産	42,774	39,007
現金及び預金	10,910	6,540
受取手形	162	197
売掛金	2,944	3,523
有価証券	17,263	15,264
たな卸資産	9,704	10,500
繰延税金資産	276	860
その他	1,516	2,124
貸倒引当金	▲ 3	▲ 4
固定資産	33,092	34,217
有形固定資産	22,547	23,793
建物	7,638	7,953
機械及び装置	1,075	2,022
土地	12,794	12,794
その他	1,038	1,023
無形固定資産	723	927
投資その他の資産	9,821	9,496
投資有価証券	5,274	5,734
子会社株式	277	230
繰延税金資産	1,082	999
その他	3,509	2,853
貸倒引当金	▲ 322	▲ 321
繰延資産	16	33
資産合計	75,883	73,258

負債の部		
科目	(単位:百万円)	
	当中間期 (平成16年9月30日現在)	前期 (平成16年3月31日)
流動負債	15,785	17,436
支払手形	1,678	1,998
買掛金	682	852
短期借入金	4,100	4,500
一年以内返済予定の長期借入金	256	256
一年以内償還予定の転換社債	7,941	7,942
引当金	232	224
その他	895	1,662
固定負債	24,427	24,580
長期借入金	9,388	9,516
再評価に係る繰延税金負債	2,468	2,468
退職給付引当金	11,875	11,900
役員退職慰労引当金	641	641
その他	53	53
負債合計	40,213	42,016
資本の部		
科目	(単位:百万円)	
	当中間期 (平成16年9月30日現在)	前期 (平成16年3月31日)
資本金	22,397	22,397
資本剰余金	21,531	21,530
利益剰余金	▲ 7,218	▲ 11,792
土地再評価差額金	▲ 1,565	▲ 1,565
株式等評価差額金	760	882
自己株式	▲ 235	▲ 211
資本合計	35,670	31,241
負債・資本合計	75,883	73,258

損益計算書

損益計算書		
科目	(単位:百万円)	
	当中間期 (平成16年9月30日現在)	前中間期 (平成15年9月30日現在)
売上高	15,674	7,060
売上原価	5,667	5,030
返品調整引当金戻入額	0	15
販売費及び一般管理費	4,601	4,342
営業利益又は営業損失(▲)	5,406	▲ 2,297
営業外収益	280	198
営業外費用	461	633
経常利益又は経常損失(▲)	5,225	▲ 2,733
特別利益	—	10
特別損失	59	140
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(▲)	5,165	▲ 2,863
法人税、住民税及び事業税	6	8
法人税等調整額	584	2,014
中間純利益又は中間純損失(▲)	4,574	▲ 4,886
前期繰越損失	▲ 15,443	▲ 10,671
中間未処理損失	▲ 10,869	▲ 15,557

貸借対照表の注記

- 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。
- 子会社に対する短期金銭債権 …… 8百万円
- 子会社に対する長期金銭債権 …… 283百万円
- 子会社に対する短期金銭債務 …… 87百万円
- 子会社に対する長期金銭債務 …… 11百万円
- 有形固定資産の減価償却累計額 …… 39,814百万円
- 貸借対照表に計上した固定資産のほか、機械装置、車両運搬具及び情報関連周辺機器等について所有権移転外ファイナンス・リース取引によるものがあります。
- 担保に提供している資産
有形固定資産 …… 6,441百万円
- 保証債務 …… 140百万円
- 資本の欠損
商法施行規則第92条に規定する差額 …… 8,826百万円
- 重要な外貨建資産
現金及び預金 …… 6,112百万円
(55,045,638.85US.\$・16,346.78STG.£)
子会社株式 …… 68百万円
(300,000US.\$・150,000STG.£)

損益計算書の注記

- 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。
- 子会社との営業取引
仕入高 …… 774百万円
- 子会社との営業取引以外の取引高 …… 16百万円
- 1株当たりの中間純利益 …… 23円27銭

会社の概要 (平成16年9月30日現在)

設立	昭和11年11月15日
資本金	223億97百万円
従業員数	723名 (出向者698名を除く)
事業内容	医薬品等の生産及び販売
上場証券取引所	東京第1部

役員

<取締役>

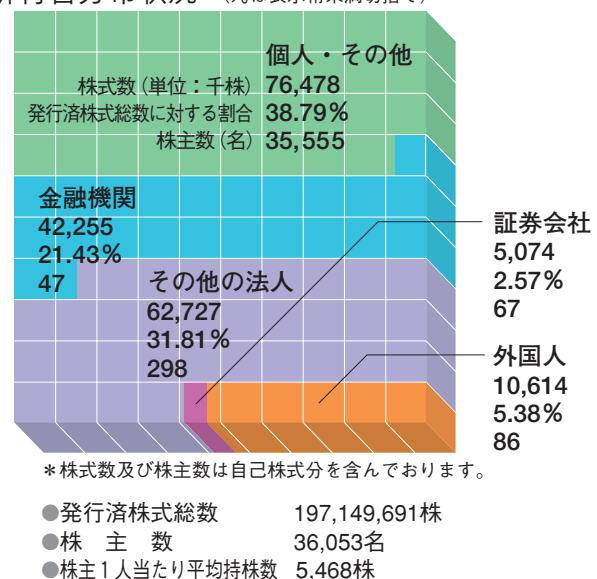
取締役 (指名委員・報酬委員)	中野克彦
取締役	阿部武夫
取締役	真田秀夫
取締役	山下晶章
取締役 (監査委員)	萩原敏治
取締役 (社外) (指名委員・報酬委員)	柳田幸男
取締役 (社外) (指名委員・監査委員)	吉田博一
取締役 (社外) (指名委員・監査委員)	犬島伸一郎
取締役 (社外) (監査委員・報酬委員)	柿本省三

<執行役>

代表執行役社長	中野克彦
専務執行役 富山事業所長兼生産部門担当	阿部武夫
専務執行役 研究部門、開発部門担当	真田秀夫
常務執行役 研究部門長兼創薬基盤研究所長	成田弘和
常務執行役 QV部門長	塩見晴夫
常務執行役 開発部門長	能村邦宏
常務執行役 生産部門長兼富山工場長兼富山第二工場長	高倉勇
執行役 環境担当、コンプライアンス担当、管理部門長	山下晶章
執行役 経営戦略部門長兼経営企画部長	水野淳一
執行役 人事部長	菅田益司
執行役 臨床開発部長	渡辺泰雄
執行役 総合研究所長	寺島信雄
執行役 事業開発部長兼新規事業開拓グループマネージャー 兼DFQプロジェクトジェネラルマネージャー 兼VRPプロジェクトジェネラルマネージャー	田仲清

株式の状況 (平成16年9月30日現在)

所有者分布状況 (%は表示桁未満切捨て)



主要株主 (上位10名)

順位	株主名	所有株式数	議決権比率
1	大正製薬 (株)	43,000,000株	22.25%
2	(株) 北陸銀行	7,487,714	3.87
3	日本トラスティ・サービス信託銀行 (株) (信託口)	5,165,000	2.67
4	(株) 三井住友銀行	5,000,000	2.58
5	大成建設 (株)	4,699,000	2.43
6	兼松 (株)	3,709,660	1.91
7	中野興産 (株)	3,377,316	1.74
8	東京海上火災保険 (株)	3,281,438	1.69
9	旭化成 (株)	3,020,408	1.56
10	日本マスタートラスト信託銀行 (株) (信託口)	2,581,000	1.33
上位10名計		81,321,536	42.08

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
配当金	利益配当金受領株主確定日 3月31日 中間配当金受領株主確定日 9月30日
基準日	3月31日 その他必要あるときはあらかじめ公告いたします。
名義書換代理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063)
郵便物ご送付先	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	電話 東京 (03) 3323-7111
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
単元未満株式の 買取及び 買増請求場所	上記名義書換代理人、同事務取扱所及び同取次所 なお、株券保管振替制度により株券を証券会社等に預託されている場合は、お取引の証券会社等にお申し出下さい。

1単元の株式数	1,000株
公告掲載新聞	日本経済新聞
貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページアドレス	http://www.toyama-chemical.co.jp/kessan/

その他
住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記名義書換代理人のフリーダイヤル又はホームページをご利用下さい。

フリーダイヤル：0120-87-2031
ホームページアドレス：
http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

